

目標と施策の方向

計画では、平成27年度を目標に、できる限り具体的な数値目標を設定し、施策の方向を示しています。

【主な目標指標】

基本施策	指標の内容	現状	目標 (H27)
車の排気ガス等の軽減	低公害車の導入 (公用車)	39台	70台
河川環境改善	水洗化率 (接続人口/市全人口)	50.5%	70.0%
	河川・水路の清掃活動 (延人数)	5,000人/年	10,000人/年
不法投棄・ポイ捨て対策	パトロール強化 (延人数)	100人/年	1,000人/年
	ポイ捨てごみの一斉清掃 (延人数)	12,400人/年	30,000人/年
ごみの減量化	ごみ処理量の削減 (削減率)	10,900 t/年	8,700t/年 (20%減)
動植物保護のための調査と環境整備	市域の希少な動植物の生息生育環境の保全	—	動植物の調査と生息地図の作製
里山景観の整備・再生	望ましい里山景観の保全・再生	—	さとやま景観条例の制定と実行、支援制度の導入
休耕地を含めた農地の有効活用	耕作放棄地面積	400ha	200ha
	農地利用集積の促進	20%	40%
森林の整備と有効活用	森づくり事業における森林整備	—	1,300ha (計画期間)
	造林事業の推進	53ha	280ha (計画期間)
	間伐事業の推進	964ha	8,000ha (計画期間)
バイオマスの活用	廃食用油のバイオディーゼル燃料による利活用	18kl/年	20kl/年
	ペレットストーブの導入	111台	1,000台 (計画期間)
	木質バイオマスの利活用推進 (間伐材等利用量)	27 t/年	30,000 t/年
廃棄物の有効活用	牛糞の堆肥化利用 (利用率)	84%	90%
	一般廃棄物のリサイクル率向上 (リサイクル率)	38%	55%

環境会議で計画を推進
本年度中に、庁内の各関係部署(担当者)で「環境推進会議」を設置します。2年ごとに目標指標達成状況の評価と、施策や目標の見直しを行い、施策推進の主体として活動していきます。また、施策および目標の見直しに対する外部審査機関として、「庄原環境会議」を本年度中に設置します。メンバーは、行政、市民、事業者および大学などで構成し、施策や目標の見直しに対する市民や事業者の意見を反映させる役割を担います。

※計画の全文は、庄原市ホームページ (<http://www.city-shobara.hiroshima.jp>) に掲載しています。また、環境衛生課(リサイクルプラザ内)や各支所環境建設室でも閲覧できます。

「庄原市環境基本計画」を策定

行政・市民・事業者が協働して環境保全

環境衛生課 ☎0824-72-1398

市は、将来にわたって、より良い生活環境を残していくため、「庄原市環境基本計画」を策定しました。

市内では、今、山林や農地の荒廃が進み、不法投棄やポイ捨て、ごみの違法な野焼きなどが行われています。また、便利さを求め続けるわたしたちの生活が、自然破壊や地球温暖化など、地球規模でさまざまな環境問題を引き起こしています。

この計画は、行政・市民・事業者が協働して取り組むべき環境施策を示しており、総合的・計画的に環境問題の解決を図ります。

“さとやま”とともに生き、“さとやま”を守っていく

望ましい環境像

「さとやまとの共生で人と地域が輝くまち・庄原」

長期的な目標として、望ましい環境像を掲げ、3つの基本目標を掲げました。市域の8割以上を山林が占める本市において、里山資源の有効活用を推進することで、環境負荷を低減し、生活環境の向上を図ります。また、行政・市民・事業者の協働と、他都市との連携を深め、日本一の環境都市を目指します。

基本目標

1 生活文化・環境の向上

“さとやま暮らしの知恵”を掘り起こし、継承と創造という視点から現代の暮らしに活かす工夫をし、生活文化・環境の向上を図ります。

2 自然環境の創造的再構築

保全する自然と創造する自然という2つの視点から、庄原市にとって望ましい自然環境のあり方を考え、里山文化都市にふさわしい環境を再生・創造します。

3 里山資源の産業化による循環型社会の構築

里山資源を有効活用し、循環システム型の産業を起こすことにより、環境の向上を図ります。